

「《私》から《私たち》への祈り」

マタイの福音書6章5～15節



私たちの人生は、「神との関係」から始まります。この数回のメッセージを通して、私たちは創造者であり全知全能の神を「おとうさん」と呼ぶ者とされたことを学びました。イエスキリストによって、私たちは「子とされた」のです。

しかし「神の子ども」はひとりではありません。「神の子どもたち」なのです。私たちは神の前にひとりとなる時に「私」となりますが、私たちはそこで「私たちの父よ」と祈る者とされるのです。

① 神の前にひとりとなって「私」となり

“人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと天におられるあなたがたの父から報いを受けられません。…施しをするとき…、祈るとき…、断食をするとき…” 1-、2-、5-、16-

“あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸をしめて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。”6-

② 「隣人」となり

“私たちの負い目をお赦しください。私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します。”12

“もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。”14-

“また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります。” マタイ18:19

③ そして「私たち」となる

“『あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。…’ 5:43-

“あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸をしめて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。…『天にいます私たちの父よ。…』”6-

○思い巡らしてみよう

- ・使徒信条において「私は…信じます」と告白するように、信仰は極めて個人的なものです。しかしその生活は、「私の神」に対して「私たちの父よ、私たちの糧を、私たちの負い目を…」と祈る歩みです。あなたの信仰は「私」としてしっかり自立していますか。そしてあなたの生活は「私たち」として一つになっていますか。